

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-8162
 住 所 東京都千代田区大手町一丁目1番2号
 氏 名 東燃化学合同会社
 社長 江澤 和彦
 (代理人) 執行役員 川崎製造所長 下村 啓
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東燃化学合同会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町7番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学基礎製品製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	795,015	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	6,927	t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2019 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018 年度)	(2019 年度)	(年度)	(年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 1,106,295 (調) 1,106,262	(実) 1,232,174 (調) 1,232,173	(実) (調)	(実) (調)	(実) 1,257,930 (調) 1,257,893
削減率		(実) -11.4 % (調) -11.4 %	(実) % (調) %	(実) % (調) %	(実) -13.7 % (調) -13.7 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	生産数量			原単位等の単位	t-CO2/t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018 年度)	(2019 年度)	(年度)	(年度)	
排出量原単位等の値	1.880	1.839			1.828
活動量の値	588275	669830			-
排出量原単位等の削減率		2.2 %	%	%	2.8 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2019年度の排出量の目標は生産量増加により基準年度比で 13.7% の増加であったが実績は 11.4% の増加となった。一方、排出量原単位は基準年度比で 2.8% の低下であったが実績は 2.1% の低下となった。 ・第1年度までに計3件の削減対策を実施し、計 2,853トン(通年削減、排出係数固定ベース)の温室効果ガスの排出量削減を達成した。 ・削減対策は順調に実施した一方で、目標年度に対し生産数量低下による非効率化運転で排出量原単位は目標未達となった。	
第2年度		
第3年度		
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>運転条件の最適化等によりエネルギー消費量を削減し温室効果ガスの排出を削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷凍コンプレッサータービン復水温度制御変更によるベントスチーム削減（第3エチレン製造装置） CO2削減期待効果：348 トン/年（原油換算：153 kl/年） ・ 共沸蒸留塔の塔圧調整方法変更によるフレアロス削減（メチルエチルケトン製造装置） CO2削減期待効果：119 トン/年（原油換算：59 kl/年）
<p>第1年度</p>	<p>2019年度の排出量の目標は生産量増加により基準年度比で13.7%の増加であったものの、運転条件の最適化等により、以下のエネルギー消費量を削減し温室効果ガスの排出を削減した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分解炉対流部内管クリーニングによる廃熱ロス削減 CO2削減期待効果：1346 トン/年（原油換算：666 kl/年） ・ 監視強化によるフレアリング削減 CO2削減期待効果：1200 トン/年（原油換算：594 kl/年） ・ 共沸蒸留塔の運転最適化によるスチーム使用量削減 CO2削減期待効果：306 トン/年（原油換算：135 kl/年） <p>尚、計画に挙げていた2件は実施タイミングが無く未実施。</p>
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	○	2015年から所内の取組としてフレア削減活動を展開し、運転調整や設備改造、バルブ補修等によりフレア排出量を削減している。
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎コンビナート形成各企業とのコージェネレーションによる省エネ ・川崎製造所エネルギー管理会議によるエネルギー効率改善への取り組み ・川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加 －川崎国際環境技術展2019に出展
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎コンビナート形成各企業とのコージェネレーションによる省エネ ・川崎製造所エネルギー管理会議によるエネルギー効率改善への取り組み ・川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加 －川崎国際環境技術展2019に出展
第2年度	
第3年度	

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移(1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量	1,100,228 t-CO ₂	1,225,247 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
原油換算エネルギー使用量	732,227 KL	795,015 KL	KL	KL
事業所の数	1	1		

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
東燃化学合同会社 川崎製造所	神奈川県川崎市浮島町7番1号	1,100,228	1,225,247		

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が500kl以上1,500kl未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度

8 事業者における基準年度からの温室効果ガスの種類ごとの排出量の推移（4号該当者等）

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)				目標排出量 (t-CO ₂)
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	
①非エネルギー起源CO ₂ (②除く)	6,067	6,927			6,261
②廃棄物の原燃料使用に伴う 非エネルギー起源 CO ₂					
③CH ₄					
④N ₂ O					
⑤HFC					
⑥PFC					
⑦SF ₆					
⑧NF ₃					